

「修士論文作成にあたって」

社会福祉学専攻 石井 喜美枝（令和元年度修了）

通信制大学院の学びを選択されたその多くの方は、日々の実践業務と並行し、限られた時間をやりくりしながら各自の研究活動に向き合うことになると思います。修了期間は2年間ではありますが、学位授与要件である研究成果物の修士論文提出期限までは正味1年7ヶ月程度です。各自の研究科目課題提出を早めに済ませ、修士論文作成に集中できる環境を計画立てて整えていくことをお勧めします。通信教育の性格上、指導教員から直接指導を受ける機会は限定されるものの、修士論文審査基準が示されていますので、各作成プロセスにおいて基準到達を目安とすることができます。5科目分の研究課題レポートの作成は、多角的な視点で自己の研究テーマを見つめる機会にもなり、論述の全体の構成・論点整理・資料の収集や活用方法など、論文作成の基本ルール習得の場ともなります。私自身の経験で恐縮ですが、修士論文作成を通して気づいた点を2点述べさせていただきます。参考になれば幸いです。

論文作成に慣れない方は、まずは自身の研究テーマに関連する論文に多数触れ、論文がもつ「型」と「作法」を体に沁み込ませるようにします。研究論文は研究テーマの設定を基として、「目的」「方法」「結果」「考察」の一連の流れで構成されます。「研究テーマ」は他者と共有できる科学的かつ検証可能なものである必要があります。研究の土台となる「何を問うのか(研究テーマ)」、「どこまで明らかにするのか(研究目的)」を明確に定めることが第1点目のポイントです。入学前に研究計画書を提出していると思いますが、テーマと目的の設定にまだ再考の余地があるかと思います。私は当初の研究計画書を基に先行研究を整理する中で、研究テーマの見直しを重ねました。自分が関心を寄せるテーマの周辺では、過去にどのような研究が行われ何が課題とされたのかを点検することで、次第に関心事が焦点化され、実現可能な研究上の「問い」へと絞り込まれていきます。先行研究の収集に関しては、本学図書館書庫では学会誌や専門雑誌を直接手にすることができますし、国立国会図書館のオンラインサービスで遠隔複写による郵送(有料)受け取りができ、それらを主に利用しました。注目すべき論文では、使用された参考文献も再度一通り揃えて読み込み、検索ワードを変えながら繰り返し行いました。研究テーマは異なっても、研究方法や分析方法が参考

になると考えたものもあわせて収集しました。

第2のポイントは、実際に記述を進める際は、研究方法や結果の記述、考察の表現を研究目的に沿って一貫性を保って論述することです。研究方法から得られた結果を客観的に論考し展開するのが「考察」の部分であり、言い換えれば、「考察」の記述は当然に研究の着地点となる「研究目的」に向かっていくものです。これらがチグハグになると、論点がぼやけていきます。審査基準でも「論述・論旨の妥当性」が挙げられていますので、留意してください。

私の入学動機はこれまでの福祉現場での実践活動を単なる経験の積み重ねに留めるだけでなく、根拠に即した実践効果の可視化と、それを論理的に表現する力を醸成することになりました。指導教員から、「折角やりたいことをやるなら、ワクワクしながら書き進められると良い」と声をかけていただき、それを励みとしました。実際に結果を分析する過程からは、非常に興味深い気づきを得ることもでき、わずかながらでも研究の醍醐味に触れることが出来たかと感じました。2年間の修了年限で修士論文を仕上げるには、モチベーションを維持し、自分を律して進み続ける事しかなく、同期学友たちとのLAINでの交流に多分に支えられました。

これからの濃密な学びの時間で、皆さまが目指す研鑽が果たされることをお祈り申し上げます。